

ミカンコミバエとは

ミカンコミバエは体長7mm位の小型のハエの一種で、カンキツ類やウリ類などの果実の大害虫として知られている。

【世界における発生地域】

中国、東南アジア、ハワイ等

【主な寄主作物】

カンキツ類、モモ、ビワ、トマト、マンゴー等の生果実

【被害状況】

幼虫が果実に寄生すると腐敗・落下し、ひどい場合には収穫皆無となる。

【国内での発生状況】

- ① 大正8年に沖縄本島で最初に発見された。
- ② 南西諸島及び小笠原諸島にのみ発生していたことから、本土への侵入・まん延を防止するため、植物防疫法に基づき寄主植物の国内移動を規制する一方、昭和43年から根絶事業を開始し、昭和61年に根絶を達成。現在は発生が無い。
- ③ 植物防疫法により、海外の既発生地域からの寄主果実等の輸入が禁止されている。

【防除方法】

テックス板（雄誘引剤及び殺虫剤を染み込ませた誘殺板）を設置または散布することによる雄成虫の除去

※ミカンコミバエは人間や家畜への毒性・寄生性はありません。



ミカンコミバエの成虫



ミカンコミバエの幼虫